

大腸がんについて



がんは、日本人の死亡原因の第1位であり、国民の3人に1人ががんで亡くなっています。特に、大腸がんは、部位別がん患者数では第1位、死亡者数では第2位であることが分かっています*1。また大腸がんは、女性のがん死亡率の第1位、男性では第3位です*2。

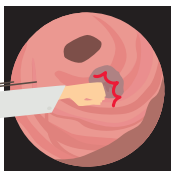
出典：*1:国立研究開発法人国立がん研究センター「がん対策情報センター「がん情報サービス」ウェブサイトより

*2:厚生労働省「平成27年人口動態統計月報年計(概数)の概況」より

早期発見が重要

大腸がんの多くは、腺腫性ポリープと呼ばれる良性の小さな細胞の塊から進展してきます。がん化するのは特定のポリープだけであり、がん化する場合は、数年かけてゆっくりと大腸がんへと進行していきます。このように進行がゆっくりであるため、大腸がんは早期発見が重要な病気であると言われています。早期発見・

早期治療のために、40歳以上では、大腸がん検診を受けることが推奨されています。また、大腸がん検診で、要精密検査となった場合は、精密検査を受けることが大切です!



お問合せ先

施設名

大腸カプセル内視鏡検査の保険適用

大腸カプセル内視鏡検査は、大腸内視鏡を実施したにもかかわらず不完全だった場合などに保険適用となります。ただし、大腸がん検診などで検査を行う場合、保険適用外となる場合がありますので、担当医師や検査施設にご確認ください。

※保険適用の詳細につきましては、担当医師や検査施設にご確認ください。

自由(自費)診療による大腸カプセル内視鏡検査

大腸がんの早期発見の重要性から、自由(自費)診療で大腸カプセル内視鏡検査を受けられる医療施設も増えてきていますので、ご希望される方は担当医師にご確認ください。

カプセル内視鏡と大腸疾患に関するお役立ち情報サイト

<http://cho-jyu.com/>



ご存知ですか?

カプセル内視鏡 大腸検査



監修：
国立がん研究センター中央病院
内視鏡センター長/内視鏡科長

齋藤 豊 先生

Medtronic

コヴィディエン ジャパン株式会社

TEL:0120-998-971

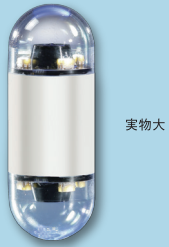
medtronic.co.jp

mt-ce-c2-ndc2(02)
1806.5000.se.e

大腸カプセル内視鏡検査とは

超小型カメラを内蔵した長さ約32mm×幅約12mmのカプセルを口から飲み込む内視鏡検査です。

カプセルは消化管を通過しながら画像を撮像し、画像を記録装置に転送します。医師はこの画像をもとに大腸の診断を行います。



実物大

大腸カプセル内視鏡検査中に注意すること

- カプセルが体外に排出されるまで、MRI検査を受けたり、強い電波や磁気を出す機器の使用とその周辺に近づくことは避けてください。
- 腹痛、吐き気、嘔吐などを催した場合は、すみやかに担当医師に連絡してください。
- 汗をかくような激しい運動は避け、腰を曲げたり、かがんだりしないようにしてください。

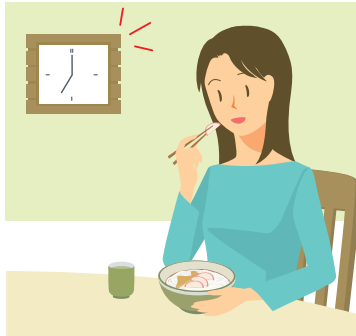
※その他の注意事項に関しましては、検査施設から事前に説明がありますので、指示に従って検査を行ってください。

※医療行為にはリスクを伴う場合があります。安全かつ効果的にカプセル内視鏡検査が行えるように、検査に伴うリスクや禁止事項、適応症などについては、担当医師から事前に説明があります。

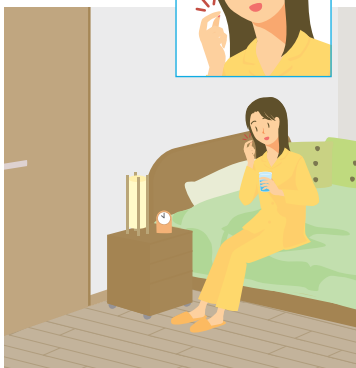
大腸カプセル内視鏡検査の流れ

1 検査の前日

- 昼食と夕食は、病院の指示にしたがい、消化のよい食事をとおってください。



- 夕食後に下剤を服用してください。

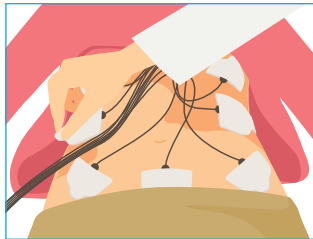


2 検査の当日 (検査前)

- 上下分かれたゆったりとした服装で来院ください。



- 検査前に腸管洗浄剤を服用していただき、腸の中をきれいにします。
- 検査機器(センサや記録装置)を取り付けます。



※指示内容が異なる場合がありますので、飲食や下剤については、担当医師の指示にしたがってください。

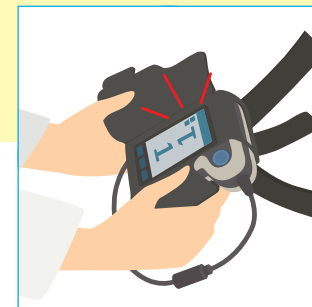
3 検査の始まり (カプセル内視鏡を嚥下)

- 担当医師の指示にしたがって、適量の水でカプセル内視鏡を飲み込んでください。



4 検査中

- 記録装置のアラーム音がなりましたら、ディスプレイに番号が表れますので、担当医師の指示にしたがって薬剤などを服用し、検査を続けてください。



5 検査の終わり

- 排便時にカプセルが排出したのを確認できた、もしくはバッテリー切れによって撮像が終了した時点で検査が終了となります。



カプセル排出確認

※排出されたカプセルは、所定の回収バッグに入れ、検査施設のルールにしたがい、適切に廃棄してください。
※検査時間には個人差があります。また、担当医師や検査施設によって指示内容が異なる場合がありますので、ご注意ください。